

OECD PISA英語力の国際調査に耐えられる英語力を育成しよう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：OECD(経済協力開発機構)は、2025年、各国の15歳を対象にした学習到達度調査(PISA)で、初めて「英語力」の調査を実施するそうですね。

A：(1)はい。グローバル化が進み、世界の共通語である英語教育の重要性が増しているため、英語の習熟度を分析、各国の英語教育に活かすためと思われます。

(2)25年に行われる15歳時の英語力国際比較調査では、英語4技能のうち「読む」「聞く」「話す」の3技能の調査が行われるようです。「書く」調査は、25年には行われなそうです。

Q：2025年の調査には、日本は不参加のようですね。

A：はい。その理由を、文部科学省は「日本と比較しやすいアジアの参加国が少なく、有用なデータが限られる」と説明しています。

Q：どうお考えですか。

A：(1)2000年から3年ごとに実施されるPISA調査では、従来、「読解力」「数学的応用力」「科学的応用力」の3分野が行われています。

(2)日本は、過去7回行われたPISA調査では、3分野ですべて上位の結果を出し続けてきました。

(3)しかし、2025年の調査で「英語力」が入ると、上位の結果を出すことは極めて困難と予想されます。

○そこで、25年は見送りという判断をしたと思われます。これは、一つの見識かもしれません。

Q：エッ、そんなことでよいのでしょうか。ちょっと情けないとは思いませんか。

A：現実には現実です。この現実を、日本政府だけでなく、日本の英語教育関係者、日本国民全員が真正面から受け止め、25年の次のPISA調査では、正々堂々、15歳時の英語力国際比較調査に参加すべきと考えます。学校はもちろんですが、学習塾・予備校・私立学校もその先頭に立つべきです。

Q：どのような取り組みをしたらよいとお考えですか。

A：(1)英語の先生のレベルアップが第一です。具体的には、小学校、中学校、高校、大学、学習塾、予備校などで英語を教えるすべての先生に、「第二言語としての英語教師(TESOL)修士課程」で学ぶ機会を十分に提供、奨励すべきです。

(2) 英語を学ぶすべての児童・生徒・学生は、「英英辞典」「英字新聞」「英語の単行本」に親しみ、英語の読解力を身に着けることです。

(3) 中学生になるまでに、英英辞典を毎日引き、英字新聞を毎日読み、英語の単行本を毎日読むことで、英語の読解力は身に着きます。

Q：他にありますか。

A：(1) 職業として英語を教える先生は、英字新聞を自費で購読し、毎日 1～2 時間以上、英字新聞をなめるように読み、英語で考える力を身に着けることが大切です。

(2) 「第二言語としての英語教師 (TESOL)」の資格を持ち、英字新聞を毎日 1～2 時間以上読み続けている先生が指導してはじめて、15 歳時の英語力国際比較調査で日本も上位国に食い込むことができると考えます。

(3) 中学生になるまでに、「英英辞典」「英字新聞」「英語の単行本」に慣れ親しみ、中学生になったら、中学 3 年間は毎日、「英英辞典」「英字新聞」「英語の単行本」を読み続ける生徒を一人でも多く育てることが、PISA 英語力調査の対策として有効と考えます。会話程度の話す練習をいくらしても、話す内容がなければ、勉強したことにはならないからです。

Q：これからの動きをまとめてください。

A：(1) 2025 年から開始される PISA の 15 歳時の英語力国際比較調査に、日本は準備が整わないために参加しません。

(2) しかし、2025 年の次の調査では、参加せざるを得ないと考えます。

(3) PISA 調査の 3 分野で、常に上位の日本は、2025 年の次の調査では、英語力でも上位に食い込むため、今後、国を挙げての最大の取り組みをするものと推測します。

Q：具体的にはどうなるとお考えですか。

A：(1) その取り組みの一つが、大学共通テストと公立高校入試の「英語リーディング」問題の「長文化」「難解化」です。

(2) この傾向はさらに強化され、PISA の 15 歳時の英語力国際比較調査での上位食い込みに結び付けると考えます。

(3) 毎年 4 月に行われる全国学力・学習状況調査も、PISA の英語力調査を目指して、国を挙げて行うものと考えます。

○この取り組みは、日本人の英語によるコミュニケーション能力の向上のために、極めて役立つものと高く評価します。

Q：学習塾でなすべきことは何ですか。

A：(1) 英語の定期試験で、全塾生、100 点満点を取らせることが第一。

(2) ① 小学 6 年生に英検 3 級を取得させること。

② 中学 3 年生に英検準 2 級、できれば英検 2 級を取得させること。

③ 高校 3 年生に英検 2 級、できれば英検準 1 級を取得させること。

(3) 大学や専門学校への進学が決定したら、その直後から高校卒業の 3 月末日まで、TOEIC

ブリッジの勉強を行うこと。

Q：学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生にお伝えしたいことは何ですか

A：(1)「英語の読解力」を身に着けるために、

＜自分の英語力に応じた＞

- ①「英英辞典」に親しむこと。
- ②「英字新聞」に親しむこと。
- ③「英語の本（原書）」に親しむこと。

(2)あとは、一度学んだ内容をひたすら「音読練習」、「書き取り練習」を繰り返すこと。

(3)「練習は、不可能を可能」にします。チャレンジあるのみです。

○学習塾・予備校・私立学校も本気になって、OECD・PISA15 歳時の英語力国際比較調査に耐えられる英語力の育成に励もうではありませんか。がんばりましょう!!

Q：最後に一言どうぞ

A：(1)4月23日は、イギリスの文豪、シェイクスピアの「誕生日」「命日」でした。1564年4月23日に生まれ、1616年に逝去したシェイクスピアは、52年の生涯で37作品を世に送り出しました。

(2)夏目漱石は、イギリス留学中に、18世紀のイギリスの文学作品の研究に没頭すると同時に、シェイクスピアの研究にも没頭。当時、イギリスでシェイクスピア研究の第一人者の先生に師事。シェイクスピアの作品が上演されている劇場に足繁く通っていたそうです。

(3)「ベニスの商人」や「ロメオとジュリエット」など、有名な作品も素晴らしいですが、「マクベス」や「テンペスト（嵐）」、「シンベリン」「アテネのタイモン」なども興味が尽きません。ぜひ、1年に1～2冊ずつでもシェイクスピアの作品をゆっくりお読みいただき、「著者との時空を超えた対話」を行っていただきたく存じます。

(4)英語の先生や英語が好きな先生・生徒は、大修館書店のシェイクスピア双書（左ページ原文、右ページ語句説明）を手元に置き、福田恒存（岩波文庫・新潮文庫）や松岡和子（ちくま文庫）などの日本語訳でじっくりお読みになると、とてもよい勉強になると考えます。

(5)BBCのCDや、彩の国さいたま芸術劇場（埼玉県）でのシェイクスピア公演も楽しみです。

(6)模擬授業大会での「演技」に参考になるのは、シェイクスピアや歌舞伎、能、狂言、謡曲、落語をはじめとする「古典演劇」「京劇」や、「現代演劇」「ミュージカル」です。市民の「パブリック・スピーキング」「演説」も参考になります。

○ただし、日本の政治家の演説は、政党本部が考えたマニフェスト（政策綱領）を丸暗記した「ステレオタイプ」の内容が大半なので驚くばかりです。

(7)イギリスが生んだ経済学者、アダム・スミスが生まれたのは、ちょうど300年前の1723年6月5日。今年2023年6月5日は、アダム・スミス生誕300年にあたります。ちなみに、亡くなったのは1790年7月17日です。

(8)アダム・スミスは、経済学の先生、「国富論」の著者として知られていますが、実は、論理学や道徳哲学、法律学の先生（大学教授）もお務めでした。

- (9)「道徳感情論」や「法学講義」は、倫理学・哲学、法律学のテキストとして、第一流のレベルのものとしてよく知られています。
- (10)特に、「道徳感情論」は、「四書」の「孟子」「論語」「中庸」「大学」で述べられた「仁」、相手の立場に立ち、相手を慈しむ心を思い起こさせる名著です。
- (11)「法学講義」は、グラスゴー大学での法学講義の講義ノートを、没後に弟子たちがまとめたものですが、定年を過ぎ円熟した大学法学部の先生による「法学概論」を思い起こさせます。
- (12)相手の立場に立ち、また、法律を守りながら、その範囲で自由闊達に経済活動を行うことの大切さを説いたのが、アダム・スミスでした。
- (13)「国富論」は、そのような基礎的な研究を踏まえて執筆された「経済原論」です。本年の6月5日は、アダム・スミス生誕300年の記念日ですから、今からでも「道徳感情論」「法学講義」「国富論」を手に取り、じっくりお読みになるのも一興と考えます。
- (14)いずれも岩波文庫で手軽に手に入ります。ぜひ、ご一読ください。

2023年4月24日記